

FAQ（よくあるご質問）

国際科全体について

【Q1】 時程はどのようになっていますか。

(A1) 1校時は8時50分に始まり、7校時がある場合授業は16時15分に終わります。最終下校時刻は18時30分です。国際科では週に3回7校時、週に2回6校時を実施しています。国際バカロレアコースでは、週7校時を基本としています。

<令和元年度の時程>

1校時	8 : 50	～	9 : 40
2校時	9 : 50	～	10 : 40
3校時	10 : 50	～	11 : 40
4校時	11 : 50	～	12 : 40
昼休み	12 : 40	～	13 : 25
5校時	13 : 25	～	14 : 15
6校時	14 : 25	～	15 : 15
7校時	15 : 25	～	16 : 15
最終下校時刻	18 : 30		

【Q2】 ホームルームクラスはあるのですか。

(A2) あります。特に高校に入学したばかりの1年目は必修の授業が多くなるので、多くの授業をホームルームクラスの仲間と一緒に受けています。学校生活全般的な相談については、担任や副担任が受けます。

【Q3】 校則はどのようなものですか。

(A3) 入学が決まると『STUDENT HANDBOOK』を配付し、その中で、「生徒会規約」「学校生活」「授業・進級・卒業」「年間行事予定」「施設の利用」といった学校生活に必要な基本的なルール（校則）を説明しています。本校の教育方針は、自主自立の精神を涵養し、豊かな人間性を育み、冷静な判断力を備えた品格ある生徒を育成することにあります。全ての事柄を校則で細かく規定するよりも、基本的なルールを守りながら、高校生として相応しい正義と責任にもとづく自由な校風を目指しています。

【Q4】 国際科（国際バカロレアコースを除く。以下、国際科という）の募集と国際科国際バカロレアコースの募集について、一方を第1希望とし、もう一方を第2希望として志願したときの選抜方法を教えてください。

(A4) 国際科の共通選抜（一般募集）には、募集人員の80%を選考する第1回目の選考と、募集人員の残る20%を選考する第2回目の選考があります。第1回目の選考は、国際科を第1希望とする者を選考対象とします。第2回目の選考は、国際科を第1希望とし第1回目の選考で合格していない者、及び国際バカロレアコースを第1希望とし、合格していない者の中で国際科を第2希望する者を選考対象とします。したがって、国際バカロレアコースを第1希望とし、国際科を第2希望とする場合は、国際バカロレアコースの選考で合格していないときに、国際科の第2回目の選考で選考対象となり、そこで合格する可能性があります。海外帰国生徒特別募集では、第1回目の選考で募集人員の50%を選考し、第2回目の選考で残る50%を選考しますが、共通選抜（一般募集）と同様に、国際バカロレアコースを第1希望とし、国際科を第2希

望とする場合、国際バカロレアコースの選考で合格していないときに、国際科の第2回目の選考で選考対象となります。

一方、国際科を第1希望とし、国際バカロレアコースを第2希望とするときは、国際バカロレアコースの志願者数が募集人員に達しない場合に、国際科の第1回目の選考で合格していない者を国際バカロレアコースの選考対象とします。

【Q5】通学に2時間近くかかります。遠方から通う生徒はいますか。

(A5) 県内各地から生徒が通学しており、通学に60分以上かかる生徒が約6割、90分以上は約1割です。

【Q6】標準服はどのようなものですか。いつ着るのですか。普段からみんな着ているのですか。

(A6) 「OLIVE des OLIVE」の紺色のブレザーのみを標準服に指定しています。式典等では必ず着用することになっています。普段の授業では、学びの場にふさわしい服装を指導しています。

【Q7】標準服の他に身につける服装などで指定されているものはありますか。

(A7) ブレザーにバッジ(Y I Sをデザインしたシンボルマーク)をつけます。また、事故・怪我から身を守るために体育着と体育館履きは、運動にふさわしいものを指定しています。

【Q8】部活動はどのように行っていますか。

(A8) 本校は、活動日を最大でも週4日としています。最終下校時刻は18時30分です。運動部の大会や文化部の発表前には、届け出により一週間程度の朝練習を行うことがあります。また、大会や発表会といった特別な活動を除いて、日曜日に部活動はありません。日曜日は、家族とコミュニケーションをとる、学校ではできない活動を行う、まとまった学習時間にあてる等、自由な日にしてほしいと思っています。[「部活動について」](#)もご参照ください。

【Q9】部活動に何割くらい入っているのですか。

(A9) 約8割の生徒が入部しています。

【Q10】横浜国際高等学校に入学すると、「国際バカロレア」の授業を受けられるのですか。

(A10) 「国際科国際バカロレアコース」においてのみ「国際バカロレア」の授業を行います。

【Q11】国際科と国際科国際バカロレアコースの違いは何ですか。

(A11) 国際科は国際科国際バカロレアコース以外の学科を指し、ここでは高等学校の学習指導要領に基づく教育を行います。国際科国際バカロレアコースは、国際科とは異なる国際的な教育プログラムを展開し、日本の高等学校卒業資格とともに国際バカロレア資格の取得を目指します。国際バカロレア資格を取得すると、海外の大学や国内のスーパーグローバル大学を中心とした国内の大学への進学の可能性が高まります。国際バカロレアコースの生徒は、1年次の4月～12月に日本の高等学校学習指導要領における必修科目を中心に勉強し、それ以降は国際バカロレアのディプロマ・プログラム(DP)の科目を中心に勉強します。3年次の11月に行われるDPの最終試験で所定の成績を収める等の要件を満たすと、国際バカロレアのディプロマ資格が得られます。

【Q12】姉妹校交流などはあるのですか。

(A12) オーストラリア、ドイツ、フランス、スペイン、韓国、モロッコ、アメリカ、台湾との姉妹校交流を実施しています。交流国は年度によって異なり、国際情勢により計画変更もあります。

【Q13】姉妹校訪問は、どのくらいの期間で、費用はいくらぐらいかかりますか。

(A13) 期間は一番長くて2週間程度です。費用は場所や時期、形態によっても異なり、15万円程度から最高35万円程度かかります。

【Q14】 姉妹校訪問は任意参加ですか。

(A14) 任意参加です。ただし、国際バカロレアコースは事前・事後学習と授業が重なる等の理由から、参加できない場合があります。原則全員参加の行事としては、2年次に実施する海外修学旅行があります。(旅行先は令和元年度がマレーシア、令和2年度よりシンガポールへ変更)

【Q15】 ホストファミリーを引き受ける場合、学校から費用面の補助はありますか。

(A15) 恐縮ですが、薄謝です。週末の外出等の費用はご家庭でご負担いただくことになります。

【Q16】 姉妹校交流は、文部科学省の企画の一環で行っているのですか。

(A16) 日程などのプログラムを県教育委員会に届け出る形で行っています。

【Q17】 海外姉妹校交流は希望しても参加できないことがあるのですか。選抜方法を教えてください。

(A17) 英語及び第2外国語が使用できる国との姉妹校交流を実施していますが、定員があり、希望者が多い場合は、面接や成績などによる選抜があります。また、科目選択等により、訪問プログラムへの応募に制限がある場合があります。

【Q18】 英語学習は好きですが、英語を話すのはあまり得意ではありません。海外から帰国した生徒もいると聞きましたが、入学時に英語を話せないと、授業についていけませんか。

(A18) 本校では英語を話す活動や自分の意見を書く活動を授業の中で多く行います。また、英語圏から帰国した生徒もおりますが、ほとんどの生徒は英語が好きで努力してきた生徒たちです。授業を活用して互いに切磋琢磨し、相手に伝わる表現力を身につけていきましょう。

【Q19】 英語のスピーチコンテストがあると聞いています。どのように行われていますか。

(A19) 開校以来、校内で選ばれた生徒によるスピーチコンテストを年1回9月に行っています。大学の先生をお招きし、審査をしていただきます。

【Q20】 卒業後の進路として外国の大学に留学したいのですが、そういう指導はしてもらえるのですか。

(A20) 外国の大学への留学は基本的には学校ではなくご家庭で準備することになりますが、その際の推薦書や英文書類の作成は、もちろん学校がお手伝いします。情報収集や相談にもできるだけきめ細かく対応していきます。

【Q21】 海外の大学に進学している人はどれくらいいますか。

(A21) 毎年数名の卒業生が進学しています。令和2年3月の卒業生については4名が海外の大学に進学予定です。

【Q22】 入学までに必要な英語の資格やレベルはありますか。

(A22) 特に設定はしていませんが、多くの生徒が英検準2級以上を修得しています。

【Q23】 帰国子女は英語圏からの生徒が多いのでしょうか。

(A23) 英語圏だけでなく、世界の様々な国から入学しています。

【Q24】 第2外国語はいつ選択するのでしょうか。

(A24) 合格者説明会において希望する第2外国語をご提示いただき、それに基づいて授業クラスを調整します。入学時には履修する第2外国語が決定しています。

国際科（国際バカロレアコースを除く）について

【Q1】国際科ということですが、どのようなものなのですか。

(A1) 普通科の高校で学習する必修科目に加え、国際コミュニケーション系、国際文化系、国際関係系の3つの系に分けられる選択科目がたくさんあります。黒板とチョークだけではなく、コンピュータとプロジェクターを用意し、スライドやインターネットなどを活用した授業を行います。施設設備や学校生活全般にもICTが活用されています。3つのコンピュータ教室と2つのCALL教室があります。CALL教室とはコンピュータを使って外国語を学ぶ教室のことです。また、図書室にもコンピュータが置かれていて、生徒は課題研究や調査をすることができます。本校ではPR（プロジェクトリサーチ）をはじめ、生徒が授業でプレゼンテーションを行う場面が多くあります。その際には、コンピュータを使ってプレゼンテーションができるよう指導しています。

【Q2】単位制の普通科高校と違いはありますか。

(A2) 本校は専門高校ですから、必修科目のほかに多数の専門科目が用意されています。たとえば英語では、国内外のさまざまなトピックを題材として、自分の考えを発表したり討論したりする「発信型の英語」を学ぶ「インターナショナルコミュニケーション」などの科目があります。英語以外の外国語はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ハンガール語、アラビア語の6言語があり、この中から1つを選択します。アラビア語は、全国の公立高校では唯一の設置校です。本校では履修選択できる科目の総数は多いのですが、進路希望に沿うよう科目履修パターンをもとに担任と相談の上で履修科目を選択していきます。1年次では芸術と英語以外の外国語をのぞいて、全員同じ科目を履修します。2年次から単位制の特色をいかし、進路実現に必要な科目や興味のある科目を選択します。

【Q3】理系進学について、カリキュラムで対応できますか。

(A3) 平成27年度入学生より「物理基礎」「化学基礎」を1年次で、「生物基礎」を2年次で全員が履修するよう変更しました。2年次以降、外国語・国際関係の科目を減らして理数系の科目を履修するようになれば十分対応が可能です。

【Q4】TOEICを950点取っています。帰国生徒と一般の生徒は英語の授業が同じクラスになりますか。

(A4) 習熟度の高い帰国生徒には別のクラスにおいてより高度な英語の授業を受けていただきます。また、数学・国語・社会・理科については、各科目の習熟度や日本語の習熟度に応じて個別対応授業を行います。

【Q5】習熟度別授業は行っていますか。

(A5) 1年次の数学で習熟度別授業を取り入れています。国公立大学への進路希望者に対して、目的を実現できるような手当てもしています。帰国生徒のための個別対応クラスもあります。外国語に関しては20人程度の少人数授業を実施し、2年次の英語では習熟度の高い生徒向けのクラス（アドバンストクラス）を設置しています。

【Q6】第2外国語はI、II、IIIの順番でとらなければならないのですか。

(A6) IIやIIIを履修する場合は、I、II、IIIの順番で履修いただきます。なお、第2外国語のIは必修科目なので全員が1年次に履修します。多くの生徒がIIまでは履修し、外部のスピーチコンテスト等で入賞する程度の力を付けています。

【Q7】第2外国語は、希望するものを選択できますか。

(A7) 合格後に第1希望、第2希望の言語を選択していただき、可能な限り第1希望の言語を履修できるよう調整しています。なお、アラビア語は公立高校では唯一開講している科目です。アラビア語については大学進学時に受け取ることができる奨学金もあるため、是非履修をご検討く

ださい。

【Q8】第2外国語は複数言語選択できますか。

(A8) 原則として、1つの言語を選択いただきます。

【Q9】在学中に長期の海外留学はできますか。1年間の留学はできますか。進級はできますか。

(A9) 1年間の海外留学をする生徒は毎年います。本校と提携している学校はありませんので、各自で留学関係の団体等を通じて行き先を決定します。海外での学習状況に応じて、留学中の単位を包括的に本校の卒業単位として認めることは可能です。認められた場合は、入学した年次で卒業できます。

【Q10】女子と男子の比率はどうなっていますか。女子クラスはありますか。

(A10) 女子と男子の比率は毎年およそ3対1です。現在の1年次は、5クラス中1クラスが女子クラスです。

【Q11】体育の武道は何をやっているのですか。プールはありますか。

(A11) 剣道です。プールはありません。

【Q12】パソコンなどの機器は必要ですか。

(A12) 本校では学校内で Wi-Fi を提供しており、パソコンやタブレットを使って資料を作成する機会が多くあります。購入は必須ではありませんが、スマートフォンなどを使った活動もありますので、これらの機器の購入を推奨しています。

入学者選抜について

【Q1】一般生徒の入試はどのようなのですか。

(A1) 「[入学者選抜について](#)」のページに掲載しております。

【Q2】入学者選抜に英検等の資格は影響しますか。

(A2) 入学者選抜では、資格については問いません。点数化もしていません。

【Q3】特色検査（英語の実技検査）はどのようなものですか。

(A3) 実技検査は日本語の面接に続いて行われ、指示された内容について自分自身の考えをまとめ、英語による1分間スピーチを行います。内容を「英語によるコミュニケーション能力」及び「自分の考えをわかりやすく表現する力」の観点に基づいて評価します。なお、検査内容についての具体例は公開していません。

【Q4】一般募集で国際科国際バカロレアコースを第1希望、国際科を第2希望にした場合、国際科に合格することはあるのですか。

(A4) 国際科は、第1回目の選考で定員の80%を選考し、第2回目の選考で国際バカロレアコースを第1希望として不合格となった者のうち国際科を第2希望にした受検生を含めて国際科の残りの20%を選考するので、合格する可能性はあります。

【Q5】国際科国際バカロレアコースには、海外帰国生徒特別募集があるのですか。一般募集と同様に第1希望、第2希望があるのですか。

(A5) 国際科国際バカロレアコースにも一般募集と同様に海外帰国生徒特別募集があります。海外帰国生徒特別募集の国際科についても、第1回目の選考で定員の50%を選考し、第2回目の選考で国際バカロレアコースを第1希望として不合格となった者のうち国際科を第2希望に

した受検生を含めて選考します。

【Q6】特色検査では考える時間はありますか。

(A6) 公表していません。

【Q7】特色検査を受ける際にどのような準備が必要ですか。

(A7) 自分でトピックを決め、中学校で習った単語を用いて1分間話す練習をしましょう。

海外帰国生徒特別募集について

【Q1】海外帰国生徒の受け入れはあるのですか。

(A1) あります。条件としては、継続して2年以上外国に在住し、原則として帰国してから3年未満の者が有資格者です。入学試験は、英語、国語、数学と日本語による面接と作文です。詳しくは「[海外帰国生の皆様へ](#)」のページをご覧ください。

【Q2】海外帰国生徒としての資格は何ですか。

(A2) 海外での滞在が2年以上で、海外から帰国後3年未満であること。海外で9年生を終えるか、または終了の見込みがあること。【海外から帰国した後、日本の中学校に在籍しない場合は、県教育委員会への志願資格承認申請が必要。県教育委員会問い合わせ先：Tel 045-210-8084】

【Q3】海外帰国生徒特別募集の学力検査の問題は、共通選抜の問題と違う問題なのですか。また、合格後は入学までに社会、理科の勉強をしておいた方がよいのでしょうか。

(A3) 学力検査の問題は共通選抜の問題と同じものです。海外帰国生徒特別募集は国数英のみ受検しますが、社会、理科については、入学後のためにもできるだけ勉強しておいてください。

【Q4】海外帰国生徒特別募集の出願の流れを教えてください。

(A4) 1 帰国生徒特別募集用入学願書を手（県教委または本校等帰国生徒枠がある学校で配付）。
2 本校へ次のものを準備して出願（入学願書、面接シート【共通選抜と同じもの】、海外赴任証明書【保護者の勤務する会社等から発行されるもの。書式は自由。保護者と受検生の氏名要記載】、パスポート現物【保護者と受検生のもの、出国と帰国の日付が分かるもの】

【Q5】作文のテーマやプレースメントテストについて教えてください。

(A5) 日本語作文のテーマは、県教育委員会で決めます。作文の観点は、「理解力」「独創性」「説得力」です。50分で600字～900字書くこととなります。国際科の海外帰国生徒特別募集の合格者には全員に「プレースメントテスト」を受けていただき、英数国理社での個別対応授業が必要かどうかを判断します。

※国際科国際バカロレアコースでは「プレースメントテスト」を実施しません。

【Q6】保護者の勤め先から海外赴任証明書が出ません。生まれてからのパスポートが必要ですか。

(A6) この場合は、直近の3年以内に帰国したと、2年以上保護者と受検生が海外に滞在していたことをパスポート等で証明することが必要になります。海外帰国生徒特別募集では、必要に応じて本校から県教育委員会に相談します。

国際科国際バカロレアコースについて

【Q1】 国際科国際バカロレアコースのディプロマ・プログラムの科目はどのようなものですか。

(A1) DP 科目は、次の6つのグループ(G)に分けられており、各グループの1科目を履修することになります。【G1 (言語と文学) G2 (言語習得) G3 (個人と社会) G4 (理科) G5 (数学) G6 (芸術科目又は選択科目)】

横浜国際高等学校では、次の科目を開講します。【G1 (日本語A・English A) G2 (English B) G3 (歴史) G4 (物理・化学・生物) G5 (数学) G6 (音楽)】これらの科目は、Higher Level (HL) と Standard Level (SL) に分かれており、それぞれ3科目ずつ履修します。例えば文系科目を中心に選択するのであれば、HL として日本語A、English B、歴史を履修し、SL として生物、数学、化学または音楽を履修することができます。理系科目を中心に選択するのであれば、HL として物理または生物、数学、化学を履修し、SL として日本語A、English B、歴史を履修することができます。

グループ1～6の科目に加えて、「コア」と呼ばれる次の3つの要件があります。【知の理論 (TOK: Theory of Knowledge)、課題論文 (EE: Extended Essay)、創造性・活動・奉仕 (CAS: Creativity/Activity/Service)】<[本校のパフレット](#)、[国際バカロレア機構](#)及び[文部科学省のホームページ](#)を併せてご参照ください。>

【Q2】 国際科国際バカロレアコースでは、すべて英語で授業を行うのですか。

(A2) 横浜国際高等学校のカリキュラムは、デュアル・ランゲージ (Dual Language) ディプロマ・プログラムですので、English A/B 及び数学の授業を英語で行います。それ以外の科目は日本語で実施しますが、使用するテキストには英語で書かれたものもあるため、英語を読んで内容を理解したり、英語の文を書いたりする場合があります。日本語と英語の両方で読んだり書いたりする力が必要です。

【Q3】 国際科国際バカロレアコースでは、どのような授業を行うのですか。

(A3) 探究を基盤とし、チームワークやコミュニケーションを重視し、振り返りを大切にする授業です。日本語や英語で多くの資料を読み、自分の意見をグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、エッセイ等で伝えます。

【Q4】 国際科国際バカロレアコースでは、第2外国語を履修することはできますか。

(A4) 国際バカロレアコースでは、ディプロマ資格の取得や大学での探究的な学びに備え、「アカデミックライティング」という科目を設置し、みなさんが日本語や英語で論文を書く基礎力を養成します。ただし、日本語や英語で論文を書く基礎が確立している場合は、アカデミックライティングの代わりに第2外国語を選択することが可能です。

【Q5】 国際科国際バカロレアコースの入学選抜について教えてください。

(A5) 定員については、令和2年度入試は25名 (一般募集20名/海外帰国生徒特別募集5名) であり、令和3年度については10月以降に確定します。令和3年度入学選抜においては、令和3年2月15日 (月) に学力検査等があり、2月15日 (月) から16日 (火) や17日 (水) にかけて面接や特色検査 (英語実技検査・自己表現検査) が実施されます。自己表現検査については、平成31年度および令和2年度入学選抜の問題をホームページに掲載しています。英語実技検査については、国際科と同じ検査を実施します。【[「入学選抜について」](#)をご参照ください。】

【Q6】 途中で国際科国際バカロレアコースから国際科へ変更することはできますか。

(A6) カリキュラムが全く異なるため、途中からの変更はできません。国際科から国際バカロレアコースに変更することも同じ理由によりできません。

【Q7】国際科国際バカロレアコースの生徒は、部活動に参加できますか。

(A7) 国際科と時間割が異なるため、部活動等放課後の活動に参加する時間が遅くなる場合があります。

【Q8】国際科国際バカロレアコースでは、どのような費用がかかりますか。

(A8) 国際科の生徒と授業料や諸会費*¹は同じですが、国際科国際バカロレアコースでは、パソコンを使用しながら学ぶことを基本としているため、各家庭で持ち運びが可能なパソコン*²を用意していただきます。また、学習指導要領科目と国際バカロレアの科目で使用する教科書や副教材の購入費*³に加え、最終試験を受験するための試験料等*⁴をご家庭に負担していただくこととなります。

*1：授業料 118,800 円、諸会費 37,288 円、1 年次費 22,000 円（令和 2 年度新入生）

*2：Word, Excel, Power Point 等が使用できるもの（新規購入費目安 7 万円～10 万円）

*3：国際バカロレア科目の書籍代として、3 年間で約 8 万円（目安 1 年次 34,000 円、2 年次 40,000 円）、別にグラフ電卓代や白衣代として入学時に約 3 万円かかります。

*4：受験料約 12 万円（目安）

【Q9】国際科国際バカロレアコースでは、選択科目をいつ決めますか。

(A9) 1 年次の 4 月～12 月の選択科目（アカデミックライティング及び第 2 外国語）については、合格後すぐに決めます。国際バカロレアのディプロマ・プログラム(DP)の科目については、入学後、相談しながら決めていきますが、【Q1】を参照していただき、事前に考えていただくことをお勧めします。なお、芸術科目は DP 科目との関連から音楽 I の履修となります。

【Q10】国際科国際バカロレアコースでは、留学できますか。

(A10) 国際バカロレアコースでは、Higher Level (HL)の科目を各 240 時間、Standard Level (SL)の科目を各 150 時間学ぶ必要がありますので、基本的には留学は難しくなります。

【Q11】国際科国際バカロレアコースの 1 年生は 4 月から 12 月まで音楽 I が必修ですが、1 月から DP 化学を選択する場合でも、音楽知識は必要ですか？

(A11) 国際科国際バカロレアコース 1 年生の音楽は、プレ DP という位置づけになっていますので、基礎的な読譜力、つまり、音の長さ、高さ、拍子やリズム、調号や臨時記号などを読める力は必要です。

以上